

実践授業Ⅱ 小学校第5学年外国語活動学習指導案

指導月日 平成30年10月29日

所属校名 名取市立那智が丘小学校

氏名 櫻田 淳也

1 単元名 Unit5 「She can run fast. He can jump high.」(文部科学省 We can!1)

2 単元の目標

(1) 自分や第三者について、できることやできないことを聞いたり言ったりすることができる。また、文字には音があることに気付く。 【知識及び技能】

(2) 自分や第三者について、できることやできないことを、考えや気持ちも含めて伝え合う。 【思考力、判断力、表現力等】

(3) 他者に配慮しながら、自分や第三者について、できることやできないことなどを紹介し合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元観

本単元は、児童が初めて三人称に出会う単元である。これまで一人称や二人称のみで自分の思いを伝え合ってきた児童が、三人称を使って家族や友達の話もできるようになることで、英語を使って話す楽しさを一層味わえるようになると考えられる。一方で、三人称単数形の動詞変化を扱うのは、これまでの学習経験や児童の発達段階という点からも難しいため、canをともに扱うことで動詞変化を回避する。できること、できないことを紹介し合ったり、相手のできることを認め合ったりすることで、互いを認め合う気持ちが育まれたり、自分を表現することを楽しんだりすることが期待できる。

また、この単元では文字には名称のほかに音があることに気付かせ、それに慣れ親しむことをねらいとしている。さらに、「書く」活動では小文字を使った表記に慣れさせていく。パフォーマンス課題でのポスター製作では、インタビューを行った先生の名前をローマ字で表記する欄を設け、正しく名前を書くという目的を持って活動が行えるようにする。

ここでの学習は、Unit9 「Who is your hero?」において、自分が憧れる人について紹介する学習につながるものである。

4 児童の実態 [第5学年1組 男子20名 女子16名 計36名]

これまでの外国語活動の学習では、自分のことを伝えたり、相手のことを尋ねたりする表現を学習していく中で、互いに英語を使って相手のことを聞き合う活動に慣れ親しみ、コミュニケーションの楽しさを感じることができるようになってきた。一方で、5月に行った意識調査によると、単元や本時のめあてを意識して授業に参加している児童が半数程度であり、児童が学習のめあてを意識した授業づくりは不十分であった。そこでI期は、単元のルーブリック(活動における評価基準表)を設定し、それと関連した学習の振り返りシートを作成した。また、単元を通して身に付けさせたい力を見るためのパフォーマンス課題を設定し、それを単元のめあてとして意識化させて授業を進めた。I期の実践後、7月に行った意識調査によると、「振り返りシートを使用することで本時のめあてを意識して授業に参加できたか」という問いに対して、87.9%の児童が肯定的な回答をした。1時間の授業のめあてを明示し、必ず全体で確認、共有することを繰り返す中で、個々の児童がめあてを意識し見通しを持って授業に参加できるようになったことが分かる。また、「単元のめあてを意識して授業に参加できたか」という問いには、97%の児童が肯定的な回答をしており、単元全体を見通して授業に参加することができるようになってきた。一方で、33.3%の児童が評価の基準について、その記述内容や基準の差異が分かりにくいと回答した。単元の内容に応じて、記述の仕方や差異をどう示すか検討してい

く必要がある。また、93.9%の児童がルーブリックを自分の取組の振り返りに活用できたと感じているのに対し、友達の取組の振り返りに活用できた児童が75.7%に留まり、相互評価への活用にも課題が残った。そこで、Ⅱ期はルーブリックと振り返りシートの構成を再検討するとともに、児童が相互評価を通して達成感を感じたり、友達の良さを見付けたりすることができるような活動の工夫を行う必要があると考える。

5 指導観

本単元では、「Can you ～?」「I/You can ～.」「He/She can ～.」の表現を主に使い、自分や他者ができることを伝え合うことをねらいとしている。「can」を用いて自分のことを表現したり、友達や学校の先生の意外な一面に気付いたりし、互いにそれを認め合うことで児童の人間関係が更に望ましいものになることが期待できる。

第1時では、「can」を使った英語表現に慣れ親しむ活動を行う。導入のSmall Talkで、ALTにスポーツに関する漢字の読み挑戦してもらい、「Can you read～?」の表現を児童に聞かせる中で、「can」「can't」の意味を類推させていく。また、本単元では様々な動作を表す語を扱うことを知らせ、慣れ親しませる。ここで扱う語は、児童が得意としていること（スポーツ・遊び・楽器演奏等）など、児童の実態に応じたものを選ぶようにする。

第2時では、前時で取り上げた動作ができるかどうか友達に尋ねたり、「Yes/No」を使って答えたりする表現を扱う。「Can you～?」の言い方を練習し、ALTとのコミュニケーションを楽しみながら、「can」を使った英語表現に慣れ親しむようにしたい。また、アルファベットの学習では、単語の初頭音に着目させながら、文字には名称と音があることに気付かせていく。

第3時では、友達ができることを推測して尋ねたり、できることを考えて自分のことを伝えたりする活動を行う。友達と進んで関わり合いながら互いができることを知り、クラスの友達の意外な一面を知ったり、自分との違いや共通点に気付いたりすることで、更にコミュニケーションが深められるようにしていく。

第4時では、児童が知っている有名人を使って、3ヒントクイズを行う。その際、男性、女性を混ぜて出題し、男性の紹介には「he」、女性の紹介には「she」を使っていたことに気付かせ、三人称について触れていく。また、パフォーマンス課題で用いる「He/She can～」の言い方を練習する時間なので、発音やリズム、ジェスチャーなどにも留意して見たり聞いたりするよう意識付けを図りたい。

第5時では、学校の先生方ができることとできないことを紹介し合うスピーチ活動を行う。この時間にスピーチを行うため、事前にペアで担当する先生を決め、できることを尋ねるインタビューを実施し、分かったことをポスターにまとめておく。第5時のスピーチはペアやグループで行い、インタビューで得た情報から、伝える内容や英語での言い方を考え、表現の工夫を加えさせることで、「話すこと（発表）」の力の育成を目指したい。また、ルーブリックに準じて友達の発表を見取り、相互に良かった点を伝え合う活動を通して、英語で伝えることができた達成感を味わい、次時への課題を明らかにしてパフォーマンス課題に向けて意欲を高められるようにしていく。

第6時では、パフォーマンス課題に取り組ませる。本単元のパフォーマンス課題は、自分がインタビューした先生ができることやできないことについて4年生に向けて英語でスピーチするという内容とする。下級生にも分かりやすく伝えるという目的を持たせることで、課題への意欲を高めたい。また、前時の活動で得た助言を基に、よりよいスピーチになるよう練習し、発表できるようにしていく。

6 自己の研修課題との関連

(1) 研修テーマ 児童がめあてを意識し見通しを持って参加できる外国語の授業を目指して
ー ルーブリックを活用した課題の提示と評価の工夫を通して ー

(2) 研修課題との関連

① ルーブリックと振り返りシートを活用した課題提示と評価活動

児童が、学習のめあてを意識して授業に参加し、自分の取組を具体的に振り返るとともに、友達の取組も客観的に捉え、互いの良さを見付けられる授業となるよう次の点に留意したい。

1つ目は、単元のルーブリックの設定である。まず、単元全体の活動内容から、「尋ねる力」「話す力」「聞く力」「伝えるための工夫」「関わろうとする姿勢」の5観点を評価の基準として明確に設定する。各観点における評価基準を設けていく際には、児童にB評価の記述を示し、どのような姿であればA評価になるのか、児童からの意見も取り入れながら、主体的にルーブリック作成に関わることができるようにしていく。児童の視点からも評価基準の表記や差異を検討し、分かりやすいものにしていくことで、より具体的に「よりよい活動の取組の姿」を共有できるようにする。

2つ目は振り返りシートを用いた児童による評価場面の設定である。毎時間の中心活動や、単元の最後に行うパフォーマンス課題では、ルーブリックに沿って友達の活動を見取り、良かった点を具体的に賞賛できるようにしていく。また、授業の振り返りの時間では、共通の基準による相互評価の場面を設定する。振り返りシートには、自己評価に加え、友達の取組について、良い点や気付いたことを具体的に記入させる。互いの良さを発表し合う活動を通して、英語を使うことに自信を持たせたり、コミュニケーションの楽しさを感じさせたりしたい。

② パフォーマンス課題の設定

次時に行うパフォーマンス課題に見通しを持って取り組むことができるように以下の点に留意していく。

1つ目は、自分がインタビューした内容の中から、先生ができることを発表させることで、相手が知らないことを伝えたいという意欲を持たせることである。また、第5時で伝えた内容は、そのままパフォーマンス課題で使われるものであることを確認し、本時の中心活動がパフォーマンス課題に直結することを意識させる。伝える内容を考え、分かりやすいスピーチとなるよう、英語での言い方やジェスチャーなどを確認することで自信を持ってパフォーマンス課題に臨めるようにする。さらに、パフォーマンス課題でスピーチを伝える相手は4年生となるため、下級生にも分かりやすく伝えるという目的意識を持たせ、最終課題に対する意欲を持たせたい。

2つ目は、ルーブリックを用いた相互評価である。児童が、互いの発表の良い点や改善点を、観点を明確にしながらかみ合い、具体的に助言し合うことで、頑張りを認め合い達成感を味わえるようにしていく。そのために、ALTによる本時のデモンストレーションでは、良くない例と良い例を示し、ルーブリックに基づいて児童たちが意見を出し合うことで、互いの発表を見合う際の観点を確認できるようにする。また、グループ活動で得た助言を基にパフォーマンス課題に向けた目標を再設定させることで、次時への見通しを持たせたい。

3つ目は、パフォーマンス課題に向けた段階的な取組となるSmall Talkの活用である。既習事項の定着やコミュニケーションの意欲の向上を図るため、単元全体を通して、スポーツやオリンピックをテーマに設定し、Small Talkの内容につながりを持たせる。また、HRTとALTの会話の中で、児童にも話題について問い掛け、児童とのやりとりも含めたSmall Talkの時間にしていく。自信のない児童の抵抗感を減らすために、気付いたことを日本語でも進んで発言させ、会話の内容を聞き取ったりテーマに沿って話したりすることに慣れ親しむことができるようにする。

7 単元の指導と評価の計画（6時間扱い 本時5/6）

時	・学習内容 【C】 Chant	表現例	評価規準	知	思	学
1	動作を表す語や「できる」「できない」という表現を知る。 ・Small Talk ・「先生ができること・できないことを知ろう」 ・ジェスチャーゲーム ・【C】 “Can you swim?”	挨拶の表現 動作 Can you ~? Yes, I can. / No, I can't. I [can / can't] ~.	動作を表す語や「できる」「できない」という表現を理解している。	◎		

2	動作を表す語や「できる」「できない」という表現に慣れ親しみ、できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現を知る。 ・ Small Talk ・ ポインティングゲーム ・ Who am I? クイズ ・ 【C】 “Can you swim?” ・ 「アルファベットの小文字を書こう」	挨拶の表現 動作 Can you ~? Yes, I can. / No, I can't. I [can / can't] ~.	動作を表す語に慣れ親しみ、できるかどうかを尋ねる表現を理解している。また、アルファベットには名称のほかに音があることに気付いている。	○	○	
3	できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむとともに、自分ができていることを考えて伝える。 ・ Small Talk ・ Who am I? クイズ ・ 「自分を紹介しよう」 ・ 【C】 “Can you swim?” ・ 「アルファベットの小文字を書こう」	挨拶の表現 動作 Can you ~? Yes, I can. / No, I can't. [I / You] [can / can't] ~.	友達とできるかどうかを尋ね合うことができる。また、自分ができていることを伝えることに慣れ親しんでいる。		◎	○
4	自分ができていることを考え、友達と積極的に交流しようとするとともに、他者ができていることについて紹介する表現を知る。 ・ Small Talk ・ 【C】 “Can you swim?” ・ 「友達にインタビューをしよう」 ・ Who is he? Who is she? クイズ ・ 「アルファベットの小文字を書こう」	挨拶の表現 動作 Can you ~? Yes, I can. / No, I can't. [I / You / He / She] [can / can't] ~.	自分ができていることを伝えることができる。また、他者ができていることについて紹介する言い方を理解している。		◎	○
5 本 時	他者ができていることについて紹介する表現に慣れ親しむ。 ・ Small Talk ・ 【C】 “Can you swim?” ・ 「○○先生ができること紹介（グループ内発表）」	挨拶の表現 動作 Can you ~? Yes, I can. / No, I can't. [I / You / He / She] [can / can't] ~.	他者ができていることについて紹介する言い方に慣れ親しみ、分かっていることを相手に伝えることができる。	○	◎	
6	学校の先生について4年生に紹介する。 ・ 【C】 “Can you swim?” ・ パフォーマンス課題	挨拶の表現 動作 Can you ~? Yes, I can. / No, I can't. [I / You / He / She] [can / can't] ~.	学校の先生について、できることやできないことを分かりやすく紹介することができる。		◎	○

8 本時の計画

(1) 目標

伝え方に気を付けて、学校の先生ができることについて分かりやすく紹介することができる。

(2) 本時の指導に当たって

本時は、4年生に向けて学校の先生のことを紹介するというパフォーマンス課題を意識した活動となる。本単元で習った三人称の言い方、「できる」「できない」、様々な動作の表現を用い、グループでのスピーチ活動を行う。事前の準備として、ペアで学校の先生にできることやできないことを尋ねるインタビューを行い、分かったことをポスターに整理させる。この活動では、自分たちで話を聞く先生を決めさせ、英語のコミュニケーションを通して相手のことをもっと知りたくなるような取組にしていく。そして、調べた情報を基に、担当した先生のことを友達に正しく伝えようとする必要感を持ち、よりよいスピーチを目指すという目的意識につなげていく。また、スピーチの評価においては、ルーブリックを活用し、児童同士が同じ観点から取組を見合い、相互評価を行うことができるようにする。さらに、友達からの助言などを基に、パフォーマンス課題に向けて、目標の再設定を行い、次時への見通しを持たせていく。

	<p>Hello, everyone. I will tell you about my teacher. He can't ride a unicycle. But, he can play tennis. He can play the piano. He can cook. Who is he?</p> <p>② A L Tと一緒にスピーチで用いる表現の言い方を練習する。 ③ 同じ先生にインタビューを行ったペアの相手と、スピーチの練習を行う。 ④ グループになって、自分がインタビューした先生のことを紹介し合い、スピーチの良かった点や改善点を伝え合う。</p> <p>(3) パフォーマンス課題のデモンストレーションを見る。 (4) パフォーマンス課題に向けた改善点を整理する。</p>	<p>ペア グループ 一斉</p>	<p>● 一緒にインタビューを行ったペアの相手と練習することで、苦手な児童がスピーチの内容を確認したり、言い方を教え合ったりできるようにする。</p> <p>○ 友達のスピーチを見る際に、ルーブリックに照らし合わせて見取り、良かった点や改善点を具体的にアドバイスすることができるようにする。</p> <p>○ 推薦された児童にデモンストレーションをさせ、良かった点を全体で確認する。</p>	<p>て示し、その後、児童から出た意見を踏まえて改善したデモンストレーションを示す。</p> <p>● 児童の様子を見ながら、うまく発音できていない場合には正しい表現の仕方を一緒に練習するなどして、自信を持たせるようにする。</p> <p>● A L Tもグループ活動に参加し、表現することが苦手な児童と共に言い方を確認したり、良かった点を賞賛したりする。</p>	<p>【知】学校の先生のできることに紹介することができたか。 (観察・スピーチの様子)</p> <p>【思】話し方や表情、ジェスチャーなどを意識して、分かりやすく話すことができたか。 (観察・スピーチの様子)</p>
<p>振り返り 8分</p>	<p>6 本時の活動を振り返る。 ・ 振り返りシートに記入する。</p> <p>7 次時の見通しを持つ。 ・ 次時はパフォーマンス課題を実施することを確認する。</p> <p>8 あいさつをする。 C: Thank you Charleen Sensei. T: Thank you everyone. See you! C: See you!</p>	<p>個 ↓ 一斉 一斉</p>	<p>○ 本時のめあてに対してどのように取り組めたのかを考えさせる。 ○ 全体、個人の取り組みの良かった点を賞賛し、次時のパフォーマンス課題に向けて、意欲と自信を持つことができるようにする。</p>	<p>○ 本時の活動の様子を賞賛し、次時への意欲付けを行う。</p>	

(4) 本時の評価

- ① 学校の先生ができることについて紹介することができたか。 【知識及び技能】
② 話し方や表情、ジェスチャーなどを意識して、分かりやすく話すことができたか。 【思考力、判断力、表現力等】

(5) 準備物

児童：We can!1

教師：大型テレビ、パソコン、掲示物（絵カード、ワークシートの拡大図）、ワークシート

(6) 板書計画

<p>【ラストミッション】 4年生に学校の先生方のできることやできないことを紹介しよう。</p>					
<p>【本時のめあて】 インタビューをした先生のできることを学級の友達と紹介し合おう。</p>					
動作 絵カード	動作 絵カード	動作 絵カード	動作 絵カード	動作 絵カード	動作 絵カード
動作 絵カード	動作 絵カード	動作 絵カード	動作 絵カード	動作 絵カード	動作 絵カード

☆スピーチの流れ

①あいさつ
Hello, everyone.
I will tell you about my teacher.

②できないこと（1つ）
He/She can't ○○.

③できること（3つ）
But, he/she can ○○.
He/She can ○○.
He/She can ○○.

④質問
Who is he/she?

外国語活動 ふいかえいシート

5年 1組 番 名前

Unit

5

<テーマ> **できること・できないこと**

ふり返し項目	1	2	3	4	5
Can を使ってたずねることができる。【たずねる力】					
Can を使って自分や友達について話すことができる。【話す力】					
話された内容を大まかに理解することができる。【聞く力】					
伝えたいことがしっかり伝わるように工夫ができる。【伝えるための工夫】					
英語を使って進んで伝え合いができる。【関わろうとするしせい】					

A: よくできる B: できる C: もう少し

<感想>

	今日のミッション	感想（会話や活動の楽しさ、友達のよかったところ、新しい発見など）
1	☆ 動作を表すことばや「できる」「できない」の言い方を覚えよう！	☆☆☆☆☆
2	☆ できるかどうかのたずね方を覚えて、先生や友達にたずねよう！	☆☆☆☆☆
3	☆ 自分ができるところを考え、できるかどうかのたずね方を使って、友達とたずね合おう！	☆☆☆☆☆
4	☆ 友達など他の人ができることを紹介する言い方を覚えよう！	☆☆☆☆☆
5	☆ インタビューをした先生のできることを紹介し合おう！	☆☆☆☆☆



【ラストミッション】

4年生に学校の先生方のできることやできないことを紹介しよう！

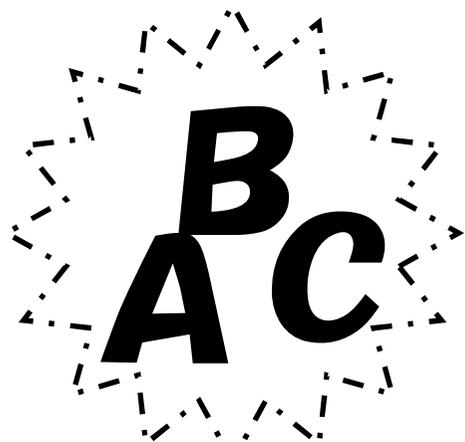
☆ Unit 5 She can run fast. He can jump high. 目標シート ☆

【たずねる力】

A	B	C
“Can you~?” を使って、黒板 やプリントのヒ ントを見ずに「で きるかどうか」 をたずねること ができる。	“Can you~?” を使って、黒板 やプリントのヒ ントを見ながら 「できるかどう か」をたずねる ことができる。	“Can you~?” を使って「でき るかどうか」を たずねることが むずかしい。

【話す力】

A	B	C
“I/You can~” “He/She can~” を使って「できるこ と」をすらすらと話 すことができる。	“I/You can~” “He/She can~” を使って「できるこ と」を話すことがで きる。	“I/You can~” “He/She can~” を使って「できるこ と」を話すことがむ ずかしい。



A: よくできる B: できる C: もう少し

【聞く力】

A	B	C
英語で話さ れた内容をほ とんど理解す ることができる。	英語で話さ れた内容を大 まかに理解す ることができる。	英語で話さ れた内容を聞 き取ることが むずかしい。

【伝えるための工夫】

A	B	C
那智コミュニ ールに気を付 けて、分かり やすく伝える ことができる。	相手に伝 わる声で話 すことができ る。	言いたいこ とを相手に伝 えるのがむ ずかしい。

※伝わる声：大きく、ハキハキ、相手に向けて
※那智コミュニール
→伝わる声、笑顔、ジェスチャー、アイコンタクト

【関わろうとするしせい】

A	B	C
男女問 わず、積極 的に自分 から話し かけて伝 え合いが できる。	自分から 話しかけ て伝え 合いが できる。	自分から 友達に話 しかけ ることが むずか しい。